哲学科

Department of Philosophy

目の前の当たり前に立ち向かい、驚きと発見に変えていく。

「なぜ？」と問いかける。
それは、すべての学問の基本であり、
生きることの基本。
どんな資格よりも社会に通じる、
思考し対話する技術を、
ともに磨いていきましょう。

学びのステップ

1年次	哲学の基本知識と哲学的思索の方法を身に付ける。
2年次	哲学的な諸問題を自ら考え哲学的な思考・分析について理解を深める。
3年次	少人数ゼミでのグループ発表や討論を通じて思考力、文章力、発言力を養う。
4年次	関心を深めた事柄について学問的アプローチをする。卒業論文を執筆する。

哲学科でできること

大学での学びのベースをつくる「基礎ゼミ」合宿

入学後すぐ、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得する「基礎ゼミ」。全員参加の合宿では、古今東西の哲学に関するさまざまなテーマについて話し合い、その成果を発表します。学生同士はもとより、教員との距離も縮まり、これから始まる4年間の大学生活のスタートをスムーズに切ることができます。

文章鍛錬とディスカッションで、思考力・表現力を伸ばす

少人数制のゼミでは、プレゼンテーションやディスカッションなど発言の機会を多く設け、思考力や表現力、コミュニケーション能力を高めます。また、文章を書くことでも、それらの力を向上させます。2年次で必修の「基礎演習」では、読んで考える、そして書くという哲学の基礎作業を身に付けます。毎回のレポート提出では添削指導も行い、こうした文章鍛錬を経て、卒業時には2万字以上の論文を書き上げます。

哲学科で身に付ける、社会を生き抜く力

1. 問題発見力・発想力
「そもそもなぜ？」と問う哲学的な問題発見能力、独創的な発想力を高める

2. コミュニケーション能力
理論的な理解力や表現力を身に付け、説得力のあるコミュニケーション能力を高める

3. 洞察力・思考力・生きる力
ものの考え方を多様な角度から学び、これによって得た広い視野や深い洞察力、柔軟な思考力によって、強く生きる力を得る

4. 応用力
哲学によって学んだ人類の知恵を、身近な現代社会の諸問題に応用する力を付ける

国際的な視野を養うヨーロッパ研修

異文化理解の問題を、実際に海外研修で学ぶ少人数講座「国際哲学特講」。学期末にヨーロッパ（フランス・ドイツ）へ行き、現地の学生と合同ゼミを行います。人間交流を通じて哲学を学び、国際的な視野を養います。（P.8参照）

注目の授業

古今東西の哲学・思想・宗教や美術・芸術学、文化史や心理学・社会学関係など、学問分野が充実。各学生の多様な関心に応じて学べます。

倫理学概論

何が善くて、何が悪いのか？　これは、私たちが生きていく上で避けることのできない問いです。この授業では、この善・悪の判断基準の根拠を開かれた姿勢で考えること、私たちが直面している生命や環境をめぐる倫理問題を深く考え、広く議論することを狙いとします。

星野 勉 教授

学生の声

つい人生について考えさせられた（2年女子）／自分の倫理観のなさに気付かされた（2年男子）／いろいろな見方があることが分かった（2年男子）／科学技術には正負の両面がある（2年男子）

哲学特講（哲学と文学）

文学と映画を通して哲学的なテーマを学習する授業です。古代ギリシャ神話と哲学の出典が多くちりばめられた T. マンの名作『ベニスに死す』と同名映画を扱い、愛、美、芸術と死などについて考え、哲学的な視点から解釈する方法も学んでいきます。

D. ハイデンライヒ 教授

学生の声

先生がカリスマ的で面白い（2年女子）／誰もが楽しめる名作を通じて学ぶ哲学（3年男子）／爽快感は格別！（4年男子）／芸術は、すべて理解しなくてもいいことも魅力です（3年女子）

現代思想1／ドイツの思想

19 世紀ドイツの思想家ニーチェを取り上げています。近年の研究を踏まえ、ニーチェについての既成観念を取り払いながら、彼が何を言おうとしたのか、また、彼の思想が現代の思想・文学・芸術にどのようなインパクトを与えたのかを浮き彫りにしていきます。

笠原 賢介 教授

学生の声

哲学への最初の一歩を踏み出す助けになる（3年男子）／独学では難しい学びができて嬉しい（3年女子）／とても分かりやすい解説（4年男子）／さまざまな視点から現代思想を学べる（3年男子）

ゼミでの学び

広い視野や深い洞察力を養うゼミ学習。さらに深く学びたい学生には、学部生も単位認定される大学院のゼミも設けています。

哲学演習（9）

デカルトから現代まで、形而上学や認識論上の超難問について、学生同士の火花の散るディスカッションと、教員の明快無比な説明とが、すがすがしい後味を残すゼミだということは、参加してみれば分かります。

中釜 浩一 教授

哲学演習（11）

法哲学のゼミです。法制度の意義・あり方について、「人間とは」「望ましい社会とは」といった根源的な視点から考えます。優しい先生の厳しい指導の下で受講生が明るく鋭く議論しています。

内藤 淳 准教授

学生の声

少人数の環境で狭く深く、内容の濃い情報を得ることができるのがゼミの魅力。ゼミを通じて身に付いたのは、「分かりにくい情報を分かりやすくして相手に伝える力」です。哲学的知識は難解なものも多く、理解する段階から苦労することもありますが、この力は将来いろんな場面で役に立つものだと思います。

哲学科 3年　関根 涼夏さん
埼玉県私立昌平高等学校出身

学生の声

現代の研究者のあいだで盛り上がっているテーマ、つまり結論がまだ定まっていない最新のテーマについて議論を行っています。そのため論理的に筋の通った意見であれば、どんな発言でも歓迎されます。また、議論は活発でありながらも、決して殺伐とすることなく、皆の発言が尊重される雰囲気が魅力です。

哲学科 3年　長友 哲郎さん
東京都立戸山高等学校出身

卒業論文テーマ例	
	幸福の哲学的考察／道徳と倫理ー主体論を通じて／原発問題に対する公共道徳の必要性ー科学の危機における責任と義務ー／笑いについて／自己実現理論における価値の問題／ハンナ・アーレントの「人間の条件」の意義と問題／「正義」という概念について／個性とは何かー私らしく生きるということー／日常的考察における写真の虚構性／抵抗権はどこまで可能か／ベジタリアンの活動から動物倫理を考える／日本人はなぜクリスマスを祝うのか／プラトン哲学における美と善の関係性について

哲学科では「グローバル体験公募推薦入試」「国際バカロレア利用自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内／入学センターHPをご覧ください。

哲学科オリジナルサイト　https://philos.ws.hosei.ac.jp

日本文学科

Department of Japanese

言葉をめぐる4年間の旅。
その果てに、日本文化の本質を見る。

文学、言語、芸能、歴史——
日本語と日本文化、そのすべてに興味を広げ、
深く深く掘り下げていく。
その過程で手にする研ぎ澄まされた「言葉の力」と
教養溢れる奥深い「人間性」は、
あなたの人生の大切な糧になるでしょう。

学びのステップ

- **1年次** 学問領域の全体像を俯瞰し学びの基礎を固め専門的な学びに備える。
- **2年次** 3コースに分かれ、ゼミに所属。専門科目や出版関連科目などの履修も可能に。
- **3年次** 他学部・他学科の科目も含めより広い視野から学びを深める。
- **4年次** 学びの集大成として卒業論文・卒業制作に取り組む。

日本文学科でできること

4年間の少人数教育で、本物の言葉の力を養う

1年次の春学期には、20人以下の少人数講座「大学での国語力」を開講します。ここでは、大学の学びに必要な、高度な「読む・聞く・書く・話す」力を養い、能動的な学びの姿勢を身に付けます。さらに秋学期には「ゼミナール入門」で専門的な学びに向けた準備を開始。2年次からはゼミナールがスタートし、専門分野の研究を深めていきます。

3コース制と横断的カリキュラムで、深く広く学ぶ

2年次からは＜文学＞＜言語＞＜文芸＞の3コースに分かれて専門性を高め、さらに学びたい専攻分野のゼミナールに所属します。ゼミはいずれも各学年10人以下の少人数制。4年次には卒業論文・卒業制作に取り組みます。また、所属コース以外の科目も履修できる横断的カリキュラムも日本文学科の特色。日本文学に関連しつつも枠にとらわれない多彩な科目群から自由に履修することで、幅広い視野と見識を得ることができます。

授業で学べる、編集・出版の知識と実務

新聞や出版業界を志す人も多い日本文学科。著作権やプライバシー問題を考える授業や、DTPソフトを使った編集実務の実習など、文芸・言論に対する考え方やスキルも学べます。また毎年、学科生が企画・編集を行って文芸誌を刊行するなど、本づくりのプロセスも体験できます。

プロの作家への原稿依頼やインタビューも経験します

＜文学＞コース
時代・ジャンル別の12のゼミで、作品を読む力を養います。授業では、演劇から歌謡、児童文学、中国古典文学まで幅広い科目を展開しています。

＜言語＞コース
日本語の歴史、現代語の諸相、言語学から見た日本語など4つのゼミで、言語の複雑さや面白さをさまざまな角度から学びます。

＜文芸＞コース
第一線で活躍する作家や評論家、編集者による5つのゼミを設置。文芸創作の理論と方法を身に付け、学生自ら作品を創り上げていきます。

注目の授業

多岐にわたる科目群により、古代から現代に至る文学・言語の基礎を学んだ上で、日本文化全体を見渡すことができます。

文章表現論

書きたいと思って始まる作文には、必ず文学作品まで結び付く言葉があります。この授業では、800字の文章を何度か提出してもらい、教員が評価をつけて講評します。現代文学の作品や世界文学史を参照し、提出された作文を素材に文学の言葉が生まれる現場に迫ります。

田中 和生教授

学生の声

自分にしか書けない文章を探求する授業（2年男子）／楽しくためになる（2年女子）／実際に文章を書き、他学生の作品を読む。創作の入口となる講義です（3年女子）／読み手の側に立って文章を書くということを学んだ（3年女子）

日本文芸研究特講（4）近世B

江戸の大衆に愛された戯作から、妖怪や昔話のパロディ絵本や黄表紙、式亭三馬『浮世風呂』、柳亭種彦『偐紫田舎源氏』などの代表的な作品を取り上げ、その面白さを分析します。ストーリーだけでない、凝りに凝った表現・文体の工夫といった作者の手際に感心させられます。

小林 ふみ子教授

学生の声

世界を新たな視点で捉え、深く知れる（3年女子）／現代の表現方法と江戸時代の表現方法がつながっていると分かります（1年女子）／江戸時代の本に直接触れ、当時の人たちが楽しんでいた書物を、楽しく読めるようになります（2年女子）

中国文芸史

「中国文芸史」と銘打っていますが、作品名や詩人名、歴史的事項などをひたすら暗記する授業ではありません。さまざまな時代・ジャンルの文学テクストに触れ、鑑賞することを通して中国古典の歴史や日本文学との関わりを学ぶのが主な内容です。

遠藤 星希専任講師

学生の声

緻密に構成された授業、丁寧に作成された資料、明確な語り口。すべてに無駄がない90分。（2年女子）／先生が楽しそうに話すので楽しくなる。（3年女子）／ゼミ生でも新しいことを知れる深さと、専門知識がない学生も楽しめる丁寧さが魅力。（4年男子）

ゼミでの学び

専門に特化した20以上のゼミをラインナップ。個々の研究を深めるとともに、実社会で必要とされる能力も実践的に身に付けていきます。

ゼミナール（文芸創作）

作品批評の方法を研究しながら自分が書きたい作品がどのようなものなのかを探求していきます。作品にはそれぞれ特徴があります。批評に耳を傾けながら、学生自身が自分の書きたい作品の形を見出します。

中沢 けい教授

ゼミナール（言語）

刻々と変化する現代日本語（例えば若者言葉）の姿を調査し、文法や意味の観点から分析します。学生によるチームプレゼンと個人研究発表の二本立てなので、準備は大変ですが、大学生らしい充実感が味わえます。

尾谷 昌則教授

学生の声

同じ風景を見ても人によって感じ方も考え方もまったく違います。性別、年齢、性格、考え方、発言、行動。あれこれ考えを巡らせて文章を書く際の言葉選びが面白いところです。文章を書くための基本的なスキル、ストーリーを考え構成する力、何より文章を書くこと自体を楽しめるようになりました。

日本文学科 4年　小滝 直也さん
山口県立下松高等学校出身

学生の声

言語学は私たちの身近にある言葉を扱う学問。普段使っている言葉で疑問に思ったことを研究テーマにできます。また、みんなの前で発表する機会が多いことも魅力の一つ。発表が苦手な人も、回を重ねるうちに言いたいことを分かりやすく伝える能力が身に付きます。

日本文学科 4年　田中 萌絵さん
International School of Düsseldorf（ドイツ・デュッセルドルフ）出身

卒業論文テーマ例

大国主神話―八十神と兎―／『源氏物語』における不義密通／現代の中学・高校生にとっての『平家物語』認知度／「善界」と天狗能の変化／百物語系怪談集から考える「怪異」への意識／谷崎潤一郎『秘密』の土地描写と幻想性／一九五二～一九六二 安部公房十年の変遷／谷川俊太郎論―死生観に冠する考察―／日韓児童文学比較論―『韓国人気童話シリーズ』の研究／絵本作家佐野洋子論／日本酒のネーミング／日米化粧品の広告コピーの比較／女児向けテレビアニメーション作品における「女ことば」使用の変化について／オノマトペ「まったり」の使用例について（ほか、創作）

日本文学科では「自己推薦入試」（11月）も実施しています。詳しくは大学案内／入学センターHPをご覧ください。

日本文学科オリジナルサイト　http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/

英文学科

Department of English

「使える英語」だけじゃない。
幅広い学びで
世界を俯瞰する力を得る。

グローバル社会で生きるために
なくてはならない「英語」。
道具としての実践英語と英語圏の文化に根ざした英語、
その両輪を深く学びます。
知的社会人としての基礎を身に付け、
国際社会に羽ばたきましょう。

学びのステップ

1年次 大学の学びに必要な知識を習得。専門講義の履修も可能。

2年次 さまざまな専門分野に触れ学びを深め、興味に応じてゼミを選択。

3年次 所属ゼミで学習・研究を行う。また、卒業論文を除くすべての科目が履修可能に。

4年次 卒業論文の執筆に励む。専門の研究に興味があれば大学院への進学も視野に。

英文学科でできること

ネイティブ指導で伸ばす“使える”英語力

目標は、英語を使って自分の意見を的確に表現し、相手を説得できる力を養うこと。2年次から履修できる「英語表現演習」では、ネイティブ・スピーカーを中心とする講師陣により、小規模クラスで会話力と作文力を伸ばします。また、実用翻訳や文芸翻訳の専門家により、本格的な翻訳が学べる授業もあります。

独自の留学プログラム（SAプログラム）で異文化体験

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、世界に通用するコミュニケーション力と適応力を身に付けるSA（Study Abroad）プログラム。毎年20～30人の学生が、海外で英語漬けの生活に挑んでいます。（P.8参照）

文学・文化・言語・教育を文・理の視点から学ぶ

実践的な英語力を得られるだけでなく、人文学的な観点から英米圏の文化・文学を学ぶことや、社会・自然科学的な観点から言語や教育を学ぶこともできます。文系・理系にまたがる学問領域に触れることで、幅広い視野を培います。3年次からは大学院の授業を履修できる制度もあり、1年次から大学院まで、体系的かつ個々の学生の興味や必要に沿った学びが可能です。

英文学科の柱となる3分野

文学系	イギリス文学、アメリカ文学、そして戯曲や映画。英語圏のさまざまな文学作品を対象に、批評と解釈の多様性を探ります。
英語学系	5世紀半ばに生まれて以来、進化し続ける英語。その歴史や成り立ち、特徴について、さまざまな観点から解き明かしていきます。
言語学系	英語のみならず日本語をはじめとした言語一般も含め、身近な言語の分析からパソコン実習にまでまたがって研究を行います。

注目の授業

文学系・英語学系・言語学系の3分野からなる本学科。教授陣の専門分野も多岐にわたり、好奇心に応じて柔軟に学べます。

英語表現演習（Speaking）

グローバル社会において英語はコミュニケーションツールの一つです。本授業では、発表やディスカッションを通して、英語で自己表現できるコミュニケーション力を養います。テーマに基づいて情報収集を行い、自分の考えや意見をまとめ、説得力のある英語で発表できるように学習します。

ブライアン・ウィスナー教授

学生の声

英語を使ったプレゼンテーションや発表で実践的な英語力が身に付きます（2年女子）／構成などスピーキングをする上で必要な知識も学べます。また、学生間で話すことも多く、他の学年ともたくさん交流できるのも魅力です（4年女子）

応用言語学

子どもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのかを学びます。そして習得理論はどのようにその違い、および類似点を説明してきたのか、理論の移り変わり、さまざまな研究手法を学び考える授業です。

川﨑 貴子教授

学生の声

言語習得が、思ったより科学的で分野横断的な学問であることに、驚きました（4年男子）／将来は教員を目指していますが、そこで生かせそうな学びが多くありました（3年男子）／知的好奇心がかき立てられる授業でした（4年女子）

文学研究方法論

文学作品（小説・演劇・映画など）を解釈するための基本的方法論を習得。さまざまな批評理論を活用しながら、特定の文学作品について自分なりの解釈を創り出し、かつ、その解釈が主観的ではあっても誤読ではないことを論証するまでの一連のプロセスを学習します。

丹治 愛教授

学生の声

一つの作品について、1年間を通して深く学んでいきます（2年女子）／文学作品にはさまざまな読み取り方があることを実感として学べます（2年女子）／英米文学に対する解釈の方法を学び、作品への理解を深めます（3年男子）

ゼミでの学び

広い視野や深い洞察力を養うゼミ学習。さらに深く学びたい学生には、学部生も単位認定される大学院のゼミも設けています。

英語学演習（2）

「ことば」って不思議。たった一言で、人を傷つけることもできれば、癒やすこともできます。ゼミのテーマは「コミュニケーション」。「話されたことば」と「伝わったメッセージ」のズレを、言語学的に研究しています。

椎名 美智教授

英米文学演習（9）

毎年テーマを設定して短編小説を読みながら、アメリカの文化や文学について考えていくゼミです。これまでに扱ったテーマは「子ども」「音楽」「都市」「幽霊」など。翻訳と原文で読んだ場合の印象の違いなども考えます。

利根川 真紀教授

学生の声

ゼミを通じて学んだことは、人を動かすためには一方的に自分の意見を伝えるだけでは不十分であるということ。ゼミ長を務める中で、初めはうまくゼミ生をまとめることができませんでした。しかし、ゼミで学んだ「言葉に隠された本音」を読み解くことで、ゼミの雰囲気づくりに貢献できたと思います。

英文学科 4年 戸田 菜摘さん
東京都立城東高等学校出身

学生の声

文学には正しい答えがない時が多々あります。だからこそ、ゼミ生や先生から、根拠とともに提示した自分の意見が一つの答えとして面白いと思ってもらえた時には、なんともいえない気持ち良さを得ることができます。ゼミでの学びを振り返って、その瞬間が自分にとって最も印象に残っていることです。

英文学科 4年 原 芳樹さん
神奈川県立市ケ尾高等学校出身

卒業論文テーマ例

『ウィキッド』におけるジェンダーと家族／イアン・マキューアン『贖罪』にみる第二次世界大戦時の女性像／「リアリティ」を求めて—The Namesakeにおける欠落の感覚—／日英分裂文：構造分析と焦点制約／ドリトル先生シリーズにおけるジョン・ドリトルの中立性について／平仮名の可愛さ効果と購買意欲の関係／音声発話中のポーズが聞き手の聴解度に与える影響／過剰なポライトネスと関係性の交渉／ Code Switching in SLA ／オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』における芸術と道徳の相克／『若きウェルテルの悩み』における「絶対的なるもの」を求める欲求について

英文学科では「グローバル体験公募推薦入試」「国際バカロレア利用自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内／入学センターHPをご覧ください。

英文学科オリジナルサイト　http://eibun.ws.hosei.ac.jp/

史学科

Department of History

歴史を見る眼と
今とこれからを見る眼、
その両方を開く。

多角的な研究と深い理解から、
自分のルーツ、そして今とこれからを考える。
歴史学とは、「考える」学問。
歴史から「新しい眼」を見つけ出す楽しさを、
体験してみませんか？

学びのステップ

1年次	日本史・東洋史・西洋史の概説科目に接して歴史学の輪郭を学ぶ。
2年次	日本史・東洋史・西洋史の各専攻のゼミに所属し、専門的な学びをスタート。
3年次	2年次に選択したゼミを引き続き履修。さらに専門性を深める。
4年次	それまでに得た幅広い知識と調査能力を総動員して、卒業論文を執筆。

史学科でできること

3専攻に分かれて学ぶコース制

1年次では「日本史」「東洋史」「西洋史」の全体像を幅広く学び、2年次からは、その3専攻のいずれかに所属します。また、所属の専攻で専門的な学びを深めながらも、他専攻の科目も履修可能。専攻を超えた学びにより、物事を多角的に捉え、客観視する力を養います。

史学科を象徴する「日・東・西（にっとうせい）」

日本史	考古・古代・中世・近世・近代・現代のすべての時代ごとに専門の教員を配置。北方史や南方史といった日本列島周辺地域の歴史に取り組む授業もあります。
東洋史	アジアを文献史料と物質資料、両方から学べるのが大きな特徴です。中国の研究機関との交流も行っており、現地を訪れる機会もあります。
西洋史	さまざまな地域と時代を学べますが、中でも西洋文明の源泉である古代ギリシャ・ローマについては、より充実した学習が期待できます。

実物の史資料に接する実践的な学び

考古学および古代史から現代史までを学ぶ日本史分野では遺物や古文書を、東洋史・西洋史の両分野では外国語の文献をテキストとして学ぶ科目もあります。時には遺物や古文書などの貴重な実物に接したり、学外施設を利用したりして学ぶこともあります。

各種データベースを活用し学習を効率化

飛躍的に増えてきたデジタルテキストや各種のデータベースを授業・学習に活用。また、学生自ら史資料や文献目録のデータベース化に取り組み、歴史学の新たな発展に寄与するとともに、学習の効率化と深化に役立てています。

注目の授業

歴史を多角的に研究し、過去の人間の営みを学ぶことで、現在と未来を考察する。そんな力を育む、多種多様な専門科目を用意しています。

東洋考古・美術史

東アジアの文化財の保護を主題とし、王朝の中心である都に纏わる遺跡や文物などを紹介しています。中国三千年王朝の９割が都を置いた洛陽、西安、北京は、まさしく古代東アジアの中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源も考えていきます。

塩沢 裕仁 教授

学生の声

実物に触れられるので、非常に学び甲斐があります（3年女子）／史学科の学生全員が受講していると思うくらい、受講者が多い（3年男子）／中国の発掘現場の写真を見られるなど、大学ならではの学術的な授業だと思う（2年男子）

日本近世史料学Ⅰ・Ⅱ

本授業では、くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解します。いまだ誰も読んだことのない古文書が、日本には数多く存在しています。これを専用の辞典を用いて一字ずつ読み進めていく。教科書にはない、ナマの歴史がここにあります。

松本 剣志郎 専任講師

学生の声

博物館で展示されている史料が読めるようになりました（3年男子）／くずし方によってまったく形の異なる字が面白い（2年男子）／癖のある文字や書き間違いなどから、江戸時代人を身近に感じることができます（3年女子）

西洋史外書講読Ⅰ

英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書くためだけではなく、グローバル化時代の社会人にとっても必要なものです。この授業では古代ローマに関連する英語論文を精読し、速読能力の基礎でもある正確な英文読解力を養います。

後藤 篤子 教授

学生の声

丁寧な訳しと精読を経て、文献の内容を理解できた時には、達成感が大きいです（2年女子）／個々の理解度に合わせたアドバイスをもらえ、読解スキルが向上（3年男子）／難しい英語の構文も丁寧に解説してくれ理解しやすい（3年女子）

ゼミでの学び

日本史分野に6つ、東洋史分野に2つ、西洋史分野に3つ、合計11のゼミを開設。ゼミ生は公私にわたって交流を深め、共に学び合います。

日本中世史演習

鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読したり、研究発表をしたりします。いずれの場合も、自分で論点を設定して考察し、何らかの見解を提示してもらいます。また、課外授業として、史跡や博物館を訪ねる機会を設けます。

大塚 紀弘 専任講師

西洋近現代史演習

西洋近現代史研究は、現代を見聞し感知することを出発点とし、過去の人間の活動を探究、研究し、未来を見通す学問です。現代社会に知のアンテナを張り、過去の人間活動に共感することができる人を求めます。

加納 格 教授

学生の声

漢文史料の読み下しによって、自力で史料を読む力が確実に伸びました。また、特に鎌倉時代では他のゼミの学生では知り得ないような知識を得られ、興味の幅が広がりました。歴史に限らずあらゆる物事において、知る前から興味がないと除外するのではなく、まずは調べてみることの大切さを実感しています。

史学科 3年 阿部 貴也さん
東京都私立立正大学付属立正高等学校出身

学生の声

ゼミでの一番の成果は、自分なりの探究心を持てたことです。過去のヨーロッパの国々が行った政策などについて、他のゼミ生と意見交換することで、ヨーロッパ社会への見解や疑問が生じ、それらをさらに深めていくことの楽しさを実感しました。また、英語の文献を読む力を養えたことも収穫の一つです。

史学科 4年 小山 幸恵さん
神奈川県私立横浜雙葉高等学校出身

卒業論文テーマ例

弥生時代中期の長野盆地における「周溝をもつ建物」に関する一考察／古代宮都の宮城十二門号配置復元／都市鎌倉と鎌倉幕府／中世における女性の地位／江戸時代の漫画・戯画文化―葛飾北斎と北斎漫画―／林内閣佐藤尚武外相の外交構想／「右翼政治家」中原謹司試論／孔子廟からみる社会と儀礼の一考察／纏足を通して考える清朝とヴィクトリア朝における国民意識の変容／古代ギリシアにおける死生観／政治家キケロについて／ゴシック大聖堂建築家の職能と社会的地位についての一考察／動員を目的とした大衆操作―第一次世界大戦期のアメリカに焦点をあてて―

史学科では、少林寺や龍門石窟などの中国の世界文化遺産研究所と学術交流協定を結んでいます。

史学科ページ　http://www.hosei.ac.jp/bungaku/gakka/history/

地理学科

Department of Geography

オールラウンドな学問「地理学」で多角的な物の見方と考え方を養う。

人文科学、社会科学、自然科学
文系・理系の枠すら超え、
広くまたがる総合的な科学。
その学びの先には、
広い視野と柔軟な思考を身に付けた
一人の人間としての成長があります。

学びのステップ

1年次	大学での学びの基礎を習得しながら、専門科目も履修。
2年次	多様な専門科目を履修しより高い専門性を身に付ける。
3年次	ゼミに所属し、調査方法やデータ分析法、論文作成技法を学ぶ。
4年次	自ら調査、分析し、討論を行いながら卒業論文をまとめる。

地理学科でできること

フィールドワークを重視した体感的学び

地理学科の大きな特色は、現地研究（フィールドワーク）という実習科目にあります。教員と学生が数日間フィールドに出かけ寝食を共にし、地域調査とディスカッションを通して地域の実態への認識を深めます。まさに「百聞は一見にしかず」。テーマや地域を実際に観察・調査することで多くの知見を得ることができます。

原則として2泊3日の日程で各地域に出かけ、テーマごとに観察・計測・聞き取り・見学などさまざまな形で研修する現地研究（フィールドワーク）。現地研究の開催は年間十数回。地理学科の学生は卒業までに2つ以上の現地研究を必ず履修します。

地理学を総合的に学べる多様な科目群

「地理学と哲学は諸科学の母」という表現がありますが、現在の諸科学はこの２つの学問から分化・派生して形成されてきたものです。非常に幅広い領域を対象とする地理学を総合的に学ぶために、本学科では「文化・歴史系」「社会・経済系」「自然・環境系」の3群からなる多様な科目を配置しています。

学部+大学院を5年で修了できる独自制度

強い向学心を持ち、学問を究めたいと考えている学生のために【学部+大学院修士課程】を5年間で修了できる制度を導入。学部において優秀な成績を修めることを前提に、学部課程を3年で終え、そのまま大学院へ進学できます。

注目の授業

地理学の専門科目は1年生から始まります。講義と並行して実習や実験もあり、インドアワークやフィールドワークの技術を学びます。

世界地誌（4）

この授業ではアジア地域の地誌を解説します。近年は日本と歴史的、地理的に最も関係の深い韓国を対象にしています。韓国の歴史、日本との関わり、現代韓国の政治、経済、社会状況を知ることは、なによりも日本の今を知ることになると考えています。

伊藤 達也 教授

学生の声

韓国についてさまざまなデータをもとに多角的視点で見るため、新しい発見があり面白い（3年男子）／一部のメディアとは違って公平、現実的な授業です（3年男子）／良い意味で自分の価値観に変化がもたらされる（3年女子）

海洋・陸水学及び実験Ⅰ・Ⅱ

地球上に存在するさまざまな「水」について理解を深め、特に、降水・河川・湖沼・地下水・雪氷・海洋など、姿を変えながら循環する水の性質と、それに伴い移動する物質や人間活動の影響などについて学習します。また、水に関するさまざまな社会問題も扱います。

小寺 浩二 准教授

学生の声

講義を聞くだけでなく、実験や実習もあるので楽しく勉強できる（2年女子）／写真や資料などが盛りだくさんで、分かりやすい（2年男子）／実際に水質の調査や分析を行う機会があり、とても有意義で役に立ちました（3年女子）

社会経済地理学（3）

授業では山村問題を対象としています。山村に見いだされる問題点を通して、日本社会の仕組みの一端を垣間見ることができるようにしたいと思っています。決して「流行る」テーマではありませんが……。

片岡 義晴 准教授

学生の声

受講者は多いですが、適度な緊張感を持って臨めます（2年女子）／後々まで役立ちそうなレジュメが配布され、ためになる（3年女子）／物事について世間一般とは違う説明をするので興味深い（2年男子）／扱う内容は難しいが理解しやすい（2年男子）

ゼミでの学び

ゼミは大きく「人文」「自然」に分かれ、3年次から4年次まで履修可能。幅広い選択肢からやりたいことに合わせて選べます。

人文地理学演習（2）

ゼミは学生が主体の学びの場。書物や論文を批判的に読み、互いに発表し合い議論します。本ゼミでは、人文地理学に関わる現代的な問題を取り上げ、活発に意見を述べ合います。そうした営みを通じてこそ、真の良き学友が得られるからです。

中俣 均 教授

学生の声

50人いれば50通りの考え方があり、自分では思いもしなかったような新しい意見や、知らなかったことを知れるのがゼミの魅力です。議論の場では学年関係なく、自分の考えをぶつけ合います。時にはゼミとしての考えがまとまらないこともありますが、それだけ議論が白熱した証拠だと思っています。

地理学科 4年 深森 裕未さん
新潟県立長岡高等学校出身

自然地理学演習（3）

本ゼミは、専門書や研究論文の精読とプレゼンテーション、卒論構想の紹介、およびそれらに関する討論を中心に、学生主体で運営されています。年2回ゼミ合宿を行い、卒論の中間報告や地形学に関する巡見などを行っています。

前杢 英明 教授

学生の声

地震や海岸浸食など、多くの学生にとって関心の高いテーマを中心に扱っています。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションの機会が多いので、人に伝える力が自然と身に付いていきます。まだ答えのない問題に対して、自ら調査し自分なりの答えを見つけ出す。そんなチャレンジが楽しいです。

地理学科 4年 張 雨茜さん
高知県私立明徳義塾高等学校出身

卒業論文テーマ例	
	東京首都圏における春・秋季の気温日較差とヒートアイランド現象の対応／地域文化行事における現代的伝承形態に関する一考察―東京都神津島村「二十五日様」行事を事例に―／古地図からみた小田原城下町の地域構造の変化／地方自治体の観光戦略と観光イメージ―京都府宇治市を事例として―／動物の妖怪現象と地理的特徴―近世の世間話を事例として―／沖縄県南部におけるさとうきび生産の展開―糸満市喜屋武地区を事例にして―／荒川における流域環境変化と水質特性／地理的なターゲティングによる広告活動の効率化―地方新聞広告と全国紙地域面広告を事例に―

地理学科では「自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内／入学センターHPをご覧ください。

地理学科オリジナルサイト　http://www.hosei.ac.jp/geogr/geo-net/

心理学科

Department of Psychology

こころのメカニズムを知り
自分や社会のために
還元していく。

目に見えず、触れることもできない。
でも、確かに存在している「こころ」について
客観的に解き明かしていく。
自分、そしてすべての人と社会が
より良く生きるためのヒントが、
そこに存在しているから。

学びのステップ

1年次	心理学のさまざまな領域について幅広く学び専門的な学びに備える。
2年次	ゼミ形式の授業で専門的な論文の読解や実験計画法などを学ぶ。
3年次	自分の取り組みたいテーマを見つけ専門性を高める。
4年次	2〜3年次の成果を踏まえて卒業研究に取り組む。

心理学科でできること

「認知系」「発達系」の二本柱で構成

人が外界を認識し、適切に行動するための仕組みを明らかにする「認知系」分野。そして、「こころ」の発達過程を探究することで、自分自身を理解することにつながる「発達系」分野。これら二つの領域をバランス良く学ぶことで、人間の心を科学的・客観的に見つめ、対応する能力を身に付けます。また、認知科学の一領域として、脳科学や言語学、哲学、情報科学と連携を取れるようなカリキュラムも実現しています。

少人数での実験・実習を重視

心理学では多くの分野で実験・調査・観察・検査・面接などの科学的な方法が用いられ、客観的なデータから結論を論理的に導き出すことが求められます。本学科では、実験や実習、フィールドワークなど少人数で行う実証的な授業形態を重視。脳波計やNIRS、ポリグラフといった機器も使いながら、学際的な学びを行っています。

あらゆる職業に応用できる学び

世の中のほとんどの職業は何らかの形で人と関わっています。人間の心を科学的に解明する手法は、あらゆる職業に応用できる実践的な道具となります。例えば、こうした能力をベースに、一般企業への就職はもちろん、心理学の能力を直接生かせる教育相談機関や福祉機関、司法・矯正機関などの公務員を目指すことも奨励しています。大学院に進学し、研究職や心理学に関わる資格を目指す人も少なくありません。

大学院への進学という選択肢

より心理学を追究したい人は、大学院への進学も念頭に。「学校心理士」や「臨床心理士」などの資格取得への道も開け、こころのスペシャリストとして多様な進路を選択できます。

注目の授業

「認知系科目群」と「発達系科目群」を二本柱に、心理学の基礎から応用まで、最新の成果を織り込んだ高度な授業を行っています。

スポーツ心理学特講

この授業では、運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。講義形式で情報を伝えるだけではなく、リラクセーションの実習を行ったり、グループで対話を行ったりしながら、授業を展開しています。

荒井 弘和教授

学生の声

授業で学んだことを生かし、習慣的に水泳をするようになりました（3年男子）／学んでいくうちに、スポーツ心理学を日常生活にも生かせることが分かりました（3年女子）／スポーツ心理学に関心を持てるようになった（2年男子）

発達心理学

「鏡に映る顔が自分の顔と分かるのはいつから？」「なぜ、反抗期ってあるの？」「人はどうして悩むの？」など、発達心理学に関わる不思議はいっぱいあります。明らかにされてきたことを理解し、いまだ未知のことをグループワークや魅力的な教材をもとにして考えます。

渡辺 弥生教授

学生の声

人の感情や思考がどのように発達するかが分かって面白い（3年男子）／道徳性についてグループで話し合いをすると、他人と自分の考えが違っていて驚きました（3年女子）／将来子どもを持つのが楽しみになりました（3年女子）

学習心理学

心理学で研究している「学習」は、学校での勉強のことだけではなく、あらゆる知識や技能の獲得に関わる、身近な現象です。主に動機づけ（やる気）や記憶の仕組みを学ぶことで、これまでの自分の学習を見直し、今後の人生に役立てる視点を持つことができます。

藤田 哲也教授

学生の声

実生活に役立つ内容だった（4年男子）／ためになった!!　自分の学習方法を見直すいい機会（3年男子）／授業の内容を実際の授業にも応用していてとても参考になった（3年女子）／理論を実践していたから、理解が深まった（2年男子）

ゼミでの学び

発達臨床や犯罪、スポーツ・健康、産業組織まで、多彩なゼミを用意。研究を究めると同時に、ソーシャルスキルも磨きます。

研究法（生理心理）

脳の働きを脳波や眼球運動から、そして身体へのストレス反応を心電図から測定します。さまざまな機器で測定した客観的な生理心理指標と、自覚的な心理測定指標を見比べながら、脳や身体で生じた「なぜ？」「どうして？」を考えていきます。

高橋 敏治教授

学生の声

自分の研究について発表する機会が比較的多いため、人前で発表することには慣れることができました。また、発表の後はゼミ生から質問やコメントが寄せられ、中には耳が痛いものもあるのですが、反省し次に生かすことの大切さとともに、必要以上に気にしすぎないことの重要性も知ることができました。

心理学科 3年　國定 稔弘さん
栃木県立足利高等学校出身

研究法（知覚認知）

写真の逆さ眼鏡をかけると、目の前が上下逆さに見えます。これは手作りで、心理学の実験では道具を自作する楽しみもあります。今年のゼミ生で、自分の手のそばにマネキンの手を置く道具を作り、自分の手の位置感覚の変化を試している学生がいます。

吉村 浩一教授

学生の声

幅広い分野をテーマにしている先輩がいるため、毎週とても刺激的です。自分の興味のある分野をとことん追求する粘り強さは、ゼミを通して得た力。一つの物事を深く調査するのはもちろん、その上でオリジナリティも持ち合わせたものにするにはどうすればよいかを、きちんと考えるようになりました。

心理学科 3年　江藤 まり奈さん
東京都私立江戸川女子高等学校出身

卒業論文テーマ例	リラックス音楽の聴取の有無が精神的疲労に与える効果／しゃぶしゃぶ店における注文行動に及ぼすPOP広告と試飲の効果／記憶痕跡の強さが経過時間判断に与える影響／感情推測手がかりの発達とソーシャルスキルの関連／日本における大量殺人犯人の属性の推定／女性大学生スポーツ競技者における摂食行動とスポーツ達成志向性との関連／インターネット上の口コミによる投稿内容の特徴抽出／言語音の音象徴性：発話単語の言語音と曲線性・明度の一致性の検討／高校生の陸上競技駅伝チームを対象としたチームビルディングの効果の検討

心理学科では大学生主体のピアサポートグループがあり、教員を交えて楽しい企画を立案し、運営しています。

心理学科オリジナルサイト　http://www.hosei-shinri.jp/psychology/

教員メッセージ／研究・ゼミテーマ

哲学科

古代ギリシア系哲学・思想

法政の哲学科では哲学を幅広く、深く勉強できます。真に哲学を学ぼうとする人は、法政へ来たれ！

奥田 和夫 教授

［研究・ゼミテーマ］
古代ギリシア哲学、ソクラテス・プラトン哲学の基礎研究

英米系哲学・思想

心配するな。何とかなる。

中釜 浩一 教授

［研究・ゼミテーマ］
科学哲学、言語科学、説明・論証の理論、論理的意味論

フランス系哲学・思想

人に愛されるのは幸福な人だけだと言われます。この幸福とは一体何なのかを哲学で学びませんか。

安孫子 信 教授

［研究・ゼミテーマ］
フランス哲学、フランス19世紀思想、アンリ・ベルクソン研究

フランス系哲学・思想

哲学は多くの方にとって新しい学問分野でしょう。新鮮な気持ちを応援しています。

酒井 健 教授

［研究・ゼミテーマ］
バタイユ研究、芸術論、西欧美術史、キリスト教思想史

比較思想・文化

既存の専門の枠を超え、世界を違う角度から見る。

D. ハイデンライヒ 教授

［研究・ゼミテーマ］
哲学と文学、映画と文化についての比較研究

哲学科

ドイツ系哲学・思想

多様な考え方・価値観・世界観等を哲学的に思索する力を身に付け、人間的な生き方を探究しよう。

牧野 英二 教授

［研究・ゼミテーマ］
近現代哲学、情感豊かな理性及び持続可能性の哲学の構築

ドイツ系哲学・思想

大いに視野を広げ、課題や問題を裏付けのある形で解決していく基礎力を養ってください。

笠原 賢介 教授

［研究・ゼミテーマ］
ドイツ現代思想・哲学、18世紀ドイツ思想

ドイツ系哲学・思想

インパクトのある立体的な双方向授業をヘーゲルからニーチェに到るドイツ哲学を中心に行います。

山口 誠一 教授

［研究・ゼミテーマ］
哲学的文明論、ヘーゲル／ニーチェの再生

数理論理学

論理的であるとはどういうことか、数学の手法を用いて考えてみましょう。

安東 祐希 教授

［研究・ゼミテーマ］
古典論理の証明論、証明図の書き換え手続き

倫理学

人間は自然の中で最も弱い一本の葦にすぎない。だが、それは考える葦である。（パスカル）

星野 勉 教授

［研究・ゼミテーマ］
倫理学研究、とりわけ自由と行為に関する研究

哲学科

倫理学

哲学者カントの思想が、現代のわれわれに訴えかけてくるものを、一緒に追究しませんか。

菅沢 龍文 教授

［研究・ゼミテーマ］
西洋近代哲学、カント哲学を研究、倫理や法の哲学的考察

法哲学

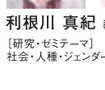
大人の言うことは信じない方がいいと思います。勝手なことを言うから。私も大人ですけど。

内藤 淳 教授

［研究・ゼミテーマ］
人権の根拠や憲法の目的の研究、人間本性の進化学的研究

日本文学科

上代文学

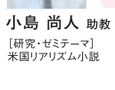


日本語や日本文学について考えることは、新たな自分を発見することにつながります。

坂本 勝 教授

［研究・ゼミテーマ］
『古事記』『万葉集』

中古文学

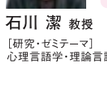


世界中の色々なものを貪欲に吸収して欲しいと思います。

加藤 昌嘉 教授

［研究・ゼミテーマ］
『源氏物語』

中世文学



『平家物語』は日本中世文学が生んだ「奇跡」だ！　一緒にその奥深い世界を探索しよう。

小秋元 段 教授

［研究・ゼミテーマ］
軍記物語・説話・お伽草子

日本文学科

中世文学

時空を超えた世界を形作る文学。日本文学を通し、人間の「生」について一緒に考えてみませんか。

阿部 真弓 教授

［研究・ゼミテーマ］
日記文学・和歌・物語

近世文学

笑い・謎解き・風流・人情……江戸に広がる、あなたの知らない古典世界を一緒に探索しましょう。

小林 ふみ子 教授

［研究・ゼミテーマ］
江戸の文学

能と狂言

法政大学で大事な「時」と大事な「友」を見つけてください。

伊海 孝充 教授

［研究・ゼミテーマ］
能楽

音楽史

日本文学科で古典音楽・伝統芸能を勉強したら、箏・三味線・尺八や能の実技のサークルもどうぞ！

スティーヴン・ネルソン 教授

［研究・ゼミテーマ］
歌謡・雅楽・平家語り

近現代文学

知ること、考えること、話し合うこと、その喜びをともにしたいと思います。参加しませんか。

中丸 宣明 教授

［研究・ゼミテーマ］
近代文学

日本文学科

近現代文学

何はともあれ、「読むこと」と「書くこと」の大好きな人は大歓迎です。キャンパスで逢いましょう！

藤村 耕治 教授

［研究・ゼミテーマ］
昭和から現代文学の作家・作品

近現代文学

文学テクストは読んで終わりではありません。読むことによって拓ける新しい世界を楽しんでください。

村山 龍 助教

［研究・ゼミテーマ］
日本近代文学

中国文学

昔の作品を入り口として「遠い過去」という異文化を一緒に旅してみませんか。楽しいですよ。

遠藤 星希 専任講師

［研究・ゼミテーマ］
唐代文学（唐詩・伝奇）・江戸明治の漢詩

中国文学

一緒に中国語を勉強しませんか。旅行や留学を通じて、中国に友達をたくさん作れますよ。

千野 明日香 教授

［研究・ゼミテーマ］
中国の昔話・伝説

言語学

言葉は非常に身近なものですが、研究してみると実に奥の深いものであることが分かります。

間宮 厚司 教授

［研究・ゼミテーマ］
古代日本語・日本語の歴史

日本文学科

言語学

辞書は読み物。カレーは飲み物。日本語は生き物。一緒に現代日本語の変化を観察しましょう！

尾谷 昌則 教授

［研究・ゼミテーマ］
現代日本語文法・若者言葉

文芸創作

一緒に創作を勉強しましょう。新しいものを発見する力が若い皆さんにはあります。

中沢 けい 教授

［研究・ゼミテーマ］
文芸創作研究

文芸創作

詩歌、戯曲、批評、いろんな創作があります。ぜひみんなで書いて、読んで、学びましょう。

田中 和生 教授

［研究・ゼミテーマ］
現代文学・文芸評論

英文学科

イギリス文学

意欲のある学生を歓迎いたします。法政大学には皆さんの期待に応える用意がございます。

結城 英雄 教授

［研究・ゼミテーマ］
20世紀イギリス小説

イギリス文学

大学では、今までよりもはるかに積極的な創造的な学び方・生き方を楽しんでください。

丹治 愛 教授

［研究・ゼミテーマ］
イギリス小説・映画

英文学科

イギリス文学

英語という外国語とじっくり向き合いたい人はぜひ英文学科へ。さまざまなアプローチを学べます。

山崎 暁子 准教授

［研究・ゼミテーマ］
イギリス児童文学

アメリカ文学

一つの生がほかの生よりも良いとは言えず、人は自分の信じるところを生きるしかない、と思います。

宮川 雅 教授

［研究・ゼミテーマ］
ロマン主義文学、リアリズム

アメリカ文学

英語の勉強は毎日積み重ねても効果が感じられない時期が続くこともあります。頑張りましょう。

利根川 真紀 教授

［研究・ゼミテーマ］
社会・人種・ジェンダー

アメリカ文学

文学を通じて他者を読み、自分を読みかえる経験を、皆さんと共有できたらと願っています。

小島 尚人 助教

［研究・ゼミテーマ］
米国リアリズム小説

言語学

言語科学（実験研究）を通して、言語にまつわる誤解を解き、科学的思考法を養ってくださいませ。

石川 潔 教授

［研究・ゼミテーマ］
心理言語学・理論言語学

英文学科

言語学

日常使っていることばについて、たくさんの気付きが待っています。受験勉強頑張ってください。

川﨑 貴子 教授

［研究・ゼミテーマ］
音韻論・第二言語習得

英語教育

英語教授法に興味がある人、将来教員を目指している人、一緒にゼミで学んでみませんか。

ブライアン・ウィスナー 教授

［研究・ゼミテーマ］
第二言語習得、英語教育学

英語学

一緒に「コミュニケーション」を科学的・理論的・実践的に研究しましょう！

椎名 美智 教授

［研究・ゼミテーマ］
語用論、コミュニケーション

英語学

法政大学の英文学科で、一緒に英語や言葉について勉強できる日を楽しみに待っています。

大沢 ふよう 教授

［研究・ゼミテーマ］
英語の統語構造の変化

比較文化

英語で遊ぼう！　グローバルな時代に英語で多様な表現のできる人材が活躍できるよう期待しています。

韓 沛君 助教

［研究・ゼミテーマ］
比較文化論、移民研究、国際関係学

英文学科

比較文学・ドイツ文学

自己実現に向けて第一歩を踏み出す場所が大学です。未来の自分のために頑張ってください。

日中 鎮朗 教授

［研究・ゼミテーマ］
ドイツ文学、比較文学・文化・芸術、文学理論

比較文学・ドイツ文学

大学では、深く、広く、内と外の世界を多様に関連づけて洞察し、行動する力を養ってください。

山下 敦 教授

［研究・ゼミテーマ］
ドイツ語圏文学・芸術

史学科

日本史分野：考古学

大学での勉学・生活の成功の鍵はスタートダッシュにあります。新たな環境の下でチャレンジを！

小倉 淳一 教授

［研究・ゼミテーマ］
日本考古学、特に東日本の弥生時代社会の研究

日本史分野：古代史

日本古代史・日本北方史・古代交流史がテーマ。日本の原点を探る旅に皆さんをご招待します。

小口 雅史 教授

［研究・ゼミテーマ］
日本古代社会経済史、古代・中世北方史

日本史分野：中世史

史学は、史料を読解して歴史像を描く、創造的な学問です。皆さんもぜひ挑戦してください。

大塚 紀弘 専任講師

［研究・ゼミテーマ］
日中関係および仏教に関する研究

史学科

日本史分野：近世史

「学問は歴史に極まり候事に候」（荻生徂徠）。自ら考えるための歴史学を学ぼう。

松本 剣志郎 専任講師

［研究・ゼミテーマ］
日本近世都市論、江戸の空間と社会

日本史分野：近代史

大学への日本近現代史ではなく、大学での日本近現代史を一緒にじっくり楽しみましょう。

長井 純市 教授

［研究・ゼミテーマ］
日本近現代政治史、明治時代～戦後の政治指導

東洋史分野：物質資料学

"自称"歴史のプロ集まれ！　ここに来れば君も本物だ。急げ、時は金なり。定員あり。

塩沢 裕仁 教授

［研究・ゼミテーマ］
漢・魏晋南北朝・隋唐の都城考古学

東洋史分野：文献史料学

専門は中国史で、漢文文献を読んでいます。歴史だけでなく、漢文の勉強も頑張りましょう。

齋藤 勝 准教授

［研究・ゼミテーマ］
唐代の社会・民族・文化の研究

東洋史分野：東南アジア史

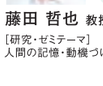
意外に身近な世界です。高校の世界史では勉強できなかったようなこと、学んでみませんか？

北川 香子 准教授

［研究・ゼミテーマ］
植民地期メコン流域およびタイ湾岸の村落社会史

史学科

西洋史分野：古代史

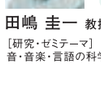


法政大学はピア・サポートが盛んな大学です。楽しい仲間たちと一緒にあなたを待っています。

中村 純 教授

［研究・ゼミテーマ］
古典期アテネの政治と社会

西洋史分野：古代・初期中世史

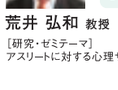


歴史の学びは「異なる他者」を慮り、自らや「今」を客観視する力に通じます。共に学びましょう。

後藤 篤子 教授

［研究・ゼミテーマ］
ローマ帝政期および初期中世の歴史と社会

西洋史分野：ロシア地域史研究



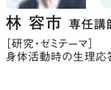
未来を考えるために現在を知り、人々に学び、歴史を学ぶ、これが歴史の勉強・研究です。

加納 格 教授

［研究・ゼミテーマ］
ロシア近現代史、ことにロシアの民主化プロセス

地理学科

文化地理学・社会地理学



外面の虚飾より内面の充実を！　そして問題意識の深化もいいが、むしろ社会への視野の拡大を。

中俣 均 教授

［研究・ゼミテーマ］
文化景観論・「島」の地理学

分析化学

地理学のすごさを地理学科に籍を置いて知りました。大いに地理学を学んでいきましょう。

中島 弘一 教授

［研究・ゼミテーマ］
物質による光吸収に関する研究

地理学科

原子核物理学

何事も諦めずに頑張ってください。

吉田 智 教授

［研究・ゼミテーマ］
宇宙における元素合成の研究

歴史地理学

みんなで一緒に歴史的景観について考えてみましょう。地理学の考え方は人生を豊かにします。

米家 志乃布 教授

［研究・ゼミテーマ］
北方地域の地図史・歴史と観光

環境経済地理学

人々が幸せになるために科学は存在します。地理学科でその一歩を踏み出してみませんか。

伊藤 達也 教授

［研究・ゼミテーマ］
環境問題、地域社会問題

変動地形学・第四紀学

自然地理学の中で地形をメインに研究・教育しています。ゼミではもう少し幅広く指導しています。

前杢 英明 教授

［研究・ゼミテーマ］
地形による地殻変動・環境変動

農業地理学

ある作家は国家・世間・学者の3つが信用できないと言います。それは確かか否か確認してください。

片岡 義晴 准教授

［研究・ゼミテーマ］
農業問題・農村問題

地理学科

海洋陸水学・水文学・GIS

人生に真剣に向き合ってみましょう。その際、「地理学」は素晴らしい味方になってくれるはずです。

小寺 浩二 准教授

［研究・ゼミテーマ］
地球環境・身近な水環境問題

都市地理学

地理学は社会に通じる学問です。自分の関心事項を学び、社会に役立つ人材に成長してください。

小原 丈明 准教授

［研究・ゼミテーマ］
都市の形成と変容（開発、所有）

気候学・生気象学

明日の天気から地球温暖化までテーマは無限大。さまざまな環境問題に一緒に取り組みましょう。

山口　隆子 准教授

［研究・ゼミテーマ］
ヒートアイランドと都市緑化

地形学・GIS

地理学は地表の諸現象を解明していく学問です。一緒に学んでいきましょう。

羽佐田 紘大 助教

［研究・ゼミテーマ］
流域・沿岸域の地形形成

心理学科

脳の科学・精神生理学

心理学の基礎（脳の科学）から応用（精神保健学）まで幅広く一緒に学びましょう。

高橋 敏治 教授

［研究・ゼミテーマ］
睡眠科学、精神保健学

心理学科

知覚心理学・認知心理学

基礎実験、演習Ⅱと積み重ねてきたトレーニングの上に、知覚・認知心理実験に取り組みましょう。

吉村 浩一 教授

［研究・ゼミテーマ］
知覚・運動・アートの科学

発達心理学・発達臨床心理学

心の発達は不思議！　粘り強さや勇気、感動はどうやって獲得できるのか。待ってます。頑張って！

渡辺 弥生 教授

［研究・ゼミテーマ］
社会性や感情の発達、学校危機予防

言語心理学・教育心理学

何にでも興味を持って調べたり、考えたりしてみてください。そのすべてが大学生活で役立ちます。

福田 由紀 教授

［研究・ゼミテーマ］
言語力のメカニズムと向上

行動分析学

人はなぜそのように行動するのか？　行動分析学で一緒に解明しましょう。

島宗 理 教授

［研究・ゼミテーマ］
組織行動マネジメント・学校心理学

犯罪心理学・社会心理学

一緒に人のこころを探究していきましょう！

越智 啓太 教授

［研究・ゼミテーマ］
犯罪捜査への心理学の応用

心理学科

認知心理学・教育心理学

やる気や記憶のメカニズムについて学び、百万馬力で人生を有意義に過ごしましょう！

藤田 哲也 教授

［研究・ゼミテーマ］
人間の記憶・動機づけ

言語学・認知科学

毎日の生活に欠かせない「ことば」とそれを支える「心」の接点を探る冒険に出掛けましょう！

田嶋 圭一 教授

［研究・ゼミテーマ］
音・音楽・言語の科学

スポーツ心理学

たまには身体を動かしてリフレッシュしながら、受験勉強を頑張ってください。応援しています！

荒井 弘和 教授

［研究・ゼミテーマ］
アスリートに対する心理サポート

運動生理学・生理心理学

自由な学びの世界で、人の動作をつかさどる心と身体の理（ことわり）を一緒に明らかにしましょう。

林 容市 専任講師

［研究・ゼミテーマ］
身体活動時の生理応答と感覚・知覚